

# 魚津市加積公民館

## ◆事業の目的

魚津市は、水資源が一つのまちで完結している世界的にまれな地域である。加積地区も片貝川（日本一の急流）が流れその恩恵を受けている。このめぐみを知る体験をして、魚津、そしてわが地区、加積のよさをもっと知ってもらおう。

## ◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
7月31日（火）	見に行こう！魚津の水循環遺産	片貝川周辺	17名
8月15日（水）	山間の花火と盆踊り体験	片貝地区	21名
11月11日（日）	サケ丸ごと料理に挑戦	片貝川周辺、加積公民館	25名

## ◆事業の様子

### ☆ 見に行こう！魚津の水循環遺産

片貝川の水は水力発電や農業用水として、私たちの暮らしに欠かせないものであるということを知るため、片貝地区の皆さんと親子で体験を行いました。教育委員会の学芸員に案内説明を受け、上流の片貝第四発電所で使用された水が下流の4か所の発電所へ順次送られる仕組みを見学しました。

そして、最後の水は円筒分水槽から農業用水として市内の水田に利用されていることを学びました。

### ☆ 山間の花火と盆踊り体験

過疎化が進む片貝三ヶ村地区の人々は、お盆に帰省される親戚の人や近隣の地区民と花火を通じて交流をしておられます。また、人口が少なくなっている現在も昔ながらの盆踊りを開催しておられます。参加した若い親子にこのような地域の生活の一部と歴史と伝統を感じ取ってもらえたと思います。

### ☆ サケ丸ごと料理に挑戦

当日はサケが少なかったが、片貝川の下流のサケの築場と上流のサケふ化場を見学しました。片貝川に放流された稚魚がロシア、アラスカの海を回遊し4年かけて又片貝川に帰ってくることを学びました。

この不思議な自然の営みに感謝し、経田地区の方々との親睦を深め楽しく秋の味覚に挑戦しました。

## ◆事業の成果と課題

私たちは片貝川の水をいかに生活の中に取り入れているか貴重な体験をすることが出来ました。また、山間地の花火を子どもたちが見て、とても感動してくれ夏休みの思い出深い体験になったと思います。

それぞれの地区の行事が重なり、日程調整が難しかったのと、夏休みで参加者が計画より少なくなりました。

